

あとがき

浄土宗教学院理事長 本庄 良文

一 はじめに

『浄土宗開宗の総合的研究』を上梓するに当り、浄土門主伊藤唯眞猊下ならびに浄土宗宗務総長川中光教上人よりの御言葉を頂戴致しましたことに、心よりの御礼を申し上げますとともに、ここに至る経緯を述べてご関係各位への感謝の言葉に替えさせて頂きたく存じます。

二 二つの記念事業

令和六（二〇二四）年に浄土宗開宗八百五〇年を迎えるにあたり、浄土宗教学院（前理事長勝崎裕彦、前副理事長

中野正明)では二つの大きな記念出版事業を計画致しました。第一は、法然上人著作に引用された経典、著作類の  
出典を総体的に明示する「資料篇」、第二は、釈尊以来の仏教がどのように宗祖の思想に流れ込み、さらに宗祖か  
ら流れ出て今日に至っているかを跡づけ、もって今後の指針とする「研究篇」の出版です。

### 三 事業完成に向けて

この計画を受けて教学院では、「浄土宗教学院開宗八五〇年記念論集編集担当理事」として中野正明編集委員長、  
林田康順編集副委員長、本庄良文編集副委員長の三名を選びました。また、「資料篇」については林田理事が調査  
班の代表となり、事務局の吉田淳雄主事、石川琢道・大橋雄人書記を窓口として若手を中心に作業を開始しました。  
教学院理事の交替に伴い、引き続き林田副理事長が調査班の代表をつとめ、石川琢道理事(担当理事)、工藤量導  
主事、大橋雄人・前島信也書記の態勢となって作業が引き継がれましたが、その後、紙媒体での公刊の予定を変更  
し、令和四(二〇三二)年十二月八日、浄土宗教学院ホームページでの公開に至りました。

### 四 「研究篇」作成に向けて

「研究篇」については当初、歴史学分野を中野委員長が担当し、それ以外を林田・本庄副委員長が担当する態勢

で原稿のテーマと分量、担当者の原案をまとめ、実務窓口を市川定敬・加藤弘孝書記として令和三（二〇二一）年八月二五日付（令和四年十二月三一日締切）で執筆依頼を行いました。

ただし、令和四年度、教学院理事の交代があり、正副理事長が退かれて新たに本庄理事長・林田副理事長の体制となったため、「研究篇」についても林田副理事長が責任者となり、編集業務については齋藤蒙光主事、加藤弘孝書記、吹田隆徳書記が当たることとなりました。

## 五、「研究篇」の概要と基本方針

本出版物は、以下の四部構成としました。通常の学術論文ではなく、概説や研究史、最新の研究状況（執筆者の見解も含む）などを盛り込んだ、いわゆる「講座」的な記述を旨と致しました。

第一部 「法然浄土教の源流」

第二部 「浄土宗開宗の意義」

第三部 「列祖における法然上人」

第四部 「浄土宗教団の成立と展開」

その上で、執筆者各位には概ね次のようなお願いを致しました。

第一部 法然上人に先行する典籍・諸師について、法然上人（とくに浄土宗開宗）への影響を中心に、当該の典籍・諸師に関する概説、必要に応じて流伝史や教理史的な位置づけなどにも言及し、法然上人への影響については、資料篇のデータも活用してなるべく具体的に言及すること。

第二部 法然上人をめぐる重要課題について、研究史および論点整理を交え記述すること。

第三部 列祖の法然上人観、とくに法然上人のどういった点を重視し顕彰しているのかを記述すること。

第四部 現在の浄土宗へと至る過程において重要な問題について、概説と研究史を交え記述すること。

右のように、短い執筆期間でのご依頼にはかなりのご無理を申し上げましたのに、ご執筆の皆様からは力のかもった玉稿を賜りました。有難く厚くお礼申し上げます。

## 六、本書の配布・公開について

教学院年度予算の中、平成二十九（二〇一七）年度より令和六（二〇二四）年度に至るまで、この事業のために毎年の積み立てを行ってまいりました。当初、完成の暁には兼務を除く全浄土宗寺院に配布する予定で進めてまいりましたが、諸般の事情により今回はそれを断念し、まずは教学院会員を中心に配布することに致しました。今後、インターネット上で公開する方法で対応していこうと考えております。

七、おわりに

読者の皆様におかれましては、本書の編集意図をご賢察のうえ、大いにご活用下さるようお願い申し上げます。

令和六年一月二十五日 記